

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2013-11-10

# APM news 094

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館(旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233

第22回美術館大学 10月5日(土) pm 3:00~4:30/受講者:51名

「東京装画賞について」 講師:末房志野、御法川哲郎、秋山孝



第22回美術館大学の題目は、「東京装画賞について」である。東京装画賞とは、昨年2012年から開催されている世界で唯一のブックジャケットのコンペティションである。各人がそれぞれの装丁・装画を表現できるコンペティションで、昨年は1283点もの応募があった。今回の美術館大学では、東京装画賞・審査委員長の秋山孝館長、実行委員長・末房志野氏、実行委員・御法川哲郎氏の3名に鼎談していただいた。

まず、秋山館長より東京装画賞の意義についてお話いただいた。ブックジャケットの機能としては、本を汚れや衝撃から守る機能と、本の内容を画像と文字で視覚的に伝える機能の二つが挙げられる。特に後者は、著者の思いや考え、言葉にならないイメージ、メッセージをビジュアルで一瞬のうちに伝える、重要な役割である。このブックジャケットのコンペティションを開催することは、上質なブックジャケットの提供を社会に促すことにつながり、図書文化に貢献できると考えているという。会場には東京装画賞の受賞者も大勢参加しており、受賞作について説明していただいた。2012年に「銀河鉄道の夜」を描き、学生部門金の本賞を受賞した内山咲子さんは、「死を連想させる作品なので寂しい感じを出した」、「幻想的で美しいものとなるよう描いた」とこだわった点を説明した。

末房氏からは審査についてのお話を聞かせていただいた。第1回目である2012年は審査がだいぶ難航したという。それは、審査の基準がデザイナーとイラストレーターでは異なったためである。デザイナーはレイアウトやタイポグラフィを重視し、イラストレーターは画像を評価したことが原因である。また、写真がイラストレーションと言えるかどうかという議論も起こり、審査は白熱したものになったという。そういった厳しい審査の中から、272点の作品が見出された。また審査において、作品の中で誤植があったものは、どんなにデザイン、イラストが優れていても落選とした。御法川氏はこのコンペティションについて、人の意見に左右されず自分の意思を表現することのできるコンペティションであり、特に学生にとっては自分を思い切り出すことができるよい機会であると述べた。

上質な文字と上質なイラストレーションは大きな力を持っている。日本では、江戸時代、歌川国貞の「お染久松色読販」に始まり、明治から昭和にかけて活躍した小村雪岱、杉浦非水、竹久夢二など素晴らしい装丁・装画家が存在した。この伝統を引き継ぎ、これからもこの「東京装画賞」で日本独自の装丁・装画の美を発信していきたいと秋山館長は述べた。

(APM公式ホームページより抜粋)